

日銀の視点

情報があふれ、便利な世の中だが、人は情報や選択肢が多いと、時に迷い不安にもなる。物事には良い面と悪い面があるとの表裏一体性を前提に、自分の決断をいかに納得するか、心の持ちようが大事だ。著名な心理学者の「ふたつよいこととてないものよ」との名言が心に響く。もちろん判断には情報が必要で、その上で個々人が培ってきた価値観や個性がベースとなり、さまざまな判断や熟考を繰り返して、毎日を生きてい

日銀水戸事務所長 稲見 征史

る。

この点、最近の金融経済の領域を見ると、判断に必要な知識の幅が広がってきていると感じる場面が多い。

先日、教育関係者から伺った話では、キャッシュレス決済が進展する中、子どもたち

驚きだった。

また、わが国で金融経済教育を受けたことがある人の割合は低い水準にあり、少額投資非課税制度(NISA)口座を保有する人も25%程度にとどまる。これに対して、欧米の家計は、日本に比べ株式

時代を見据え、資産運用を含む生涯の資産形成の知識も備えておく必要がある、学が範囲は広い。社会情勢の変化の中で判断の基準も難しく、正解があるようでない。考え抜いた力の差というかもしれないが、偶然性が結果を変え

ことも否定できない。現代社会で経済活動は人生の大きな比重を占める。その中で「これでいいのだ」と気持ちの安定を得て、前向きに過ごしていくためにも、知識・判断・心の3拍子が大事だ。知識の普及という観点では金融経済教育推進機構(FLEC)が金融経済教育

金融経済教育のすすめ

はその手段を持たないため、親が代わりに決済するケースが増えている。低学年時では一人での買い物の経験がないなど、金銭感覚の実体験が難しくなっているとのことだ。小遣い制で自然に体得してきた世代からすると、ある種の

基礎となる金銭感覚を確実に身に付けながら、人生90年

の機会を広く国民に提供している。その一つの講師派遣事業を紹介したい。学校や公民館、企業など団体に講師を無料派遣し、授業を行うもので、世代別のメニューを用意している。最近では県内企業で従業員研修として活用する動きが見られ、良い取り組みである。ただ、企業側からは時間の確保が難しいとの声も多く、隙間時間に閲覧できる動画も提供している。それを研修の代替とする余地もあろう。その他の個人向け事業も含め、ホームページ(HP)から視聴や申し込みが簡単に可能である。活用を検討いただけるとありがたい。

の機会を広く国民に提供している。その一つの講師派遣事業を紹介したい。学校や公民館、企業など団体に講師を無料派遣し、授業を行うもので、世代別のメニューを用意している。最近では県内企業で従業員研修として活用する動きが見られ、良い取り組みである。ただ、企業側からは時間の確保が難しいとの声も多く、隙間時間に閲覧できる動画も提供している。それを研修の代替とする余地もあろう。その他の個人向け事業も含め、ホームページ(HP)から視聴や申し込みが簡単に可能である。活用を検討いただけるとありがたい。